

平成 24 年度事業結果及び平成 25 年度事業予定 (詳細事業内容)

資料 2 - 1

■実施機関：環境省

事業項目				平成 24 年度		平成 25 年度予定		課題・備考	
種名	No.	事業名称	島・地域	事業内容	モニタリング項目	事業結果	平成 24 年 3 月時点		平成 25 年 7 月時点 (見直し)
ノヤギ・ノネコ	環 1	外来ほ乳類対策 ノネコ対策調査業務	父島	① 維持管理 (継続) ② ノネコ捕獲 (継続) ③ ノヤギ排除 (継続) ・ノヤギ排除作業 (銃器及びびわな) の継続。 ・ノヤギ生息状況及び植生のモニタリングの継続 ④ ノヤギ排除に関して、島民等への周知、報告等の実施。	② ノネコ排除 センサー、フンの痕跡調査 ③ ノヤギ排除 (継続) ・ノヤギ生息状況 (東平柵内: センサー、行動域調査、船上カウント、定点観察、排除効率等) ・植生 (外来植物 (東平柵内個体数調査)、希少植物 (東平周辺で個体ベース調査)、定点写真 ・侵入防止柵設置箇所における外来植物侵入状況 (東平柵沿い)	① 柵維持管理 (継続) ② H24 年度に父島山域で 15 頭を捕獲。 ③ ノヤギ排除 H24 年度、柵内で 21 頭を排除。現時点で柵内のノヤギ排除完了。 ・ノヤギ生息状況及び植生のモニタリングの実施。 ノヤギによる被害がなくなった他は植生に大きな変化はない。侵入防止柵沿いには外来樹木数種の実生が出現した。 ④ 島民等への事業の周知、進捗の報告の実施。	① 維持管理 (継続) ② 父島山域におけるノネコモニタリング及び捕獲、捕獲したネコの一時飼養及び搬送。東平生態系モニタリング及び保全方針検討会の開催 (継続) ③ ノヤギ排除 (継続) ・ノヤギ排除作業 (銃器及びびわな) の継続。 ・ノヤギ生息状況及び植生のモニタリングの継続 ④ ノヤギ排除に関して、島民等への周知、報告等の実施。	見直しなし	「東平ノヤギ・ノネコ排除柵設定に関する検討会」において、検討
ノネコ	環 2	ノネコ対策調査業務	母島	① ノネコのモニタリング及び捕獲 (継続)	ノネコ生息状況 (センサー) (継続)	① H22 年度から引き続き、モニタリング及びモニタリング状況に応じて周辺域におけるノネコの排除を実施。H24 年度は、南崎にて 5 頭を捕獲。	① 南崎半島部およびその他山域 (乳房山) でのノネコのモニタリング及び試験捕獲、捕獲したネコの一時飼養及び搬送、南崎フェンス内海鳥モニタリング (継続)	・見直しなし。 ・ただし、今期、ネコによるアカガシラカラスバトの捕食事故が母島でも生じていることから、緊急的な取組が必要となる可能性がある。	
	環 3	外来ほ乳類対策	兄島・弟島	モニタリングを縮小する。他分野の調査等と協力し、残存個体の情報が得られた場合、捕獲等の対策を速やかに行う。	他分野の調査時における残存個体の情報収集。	兄島・弟島両島に関して、残存個体の情報なし。	モニタリングは実施せず。他分野の調査等と協力し、残存個体の情報が得られた場合、捕獲等の対策を速やかに行う。	見直しなし	
ノブタ	環 4	外来ほ乳類対策	弟島	他分野の調査等と協力し、残存個体の情報が得られた場合、捕獲等の対策を速やかに行う。	他分野の調査時における残存個体の情報収集。	弟島でのノブタの痕跡等は確認されなかった。	モニタリングは実施せず。他分野の調査等と協力し、残存個体の情報が得られた場合、捕獲等の対策を速やかに行う。	見直しなし	平成 21 年 11 月の科学委員会で根絶を発表
クマネズミ	環 5	外来動物対策調査	聳島・東島、兄島	① 既駆除地域でのモニタリング調査の継続 ② 弟島から兄島への再侵入対策の継続 ③ オガサワラノスリなど鳥類、植物、陸産貝類などのモニタリングの継続 ④ 駆除手法の改善に関する検討、および弟島での再駆除、母島属島での駆除実施と、駆除前のネズミ類・非標的種生息状況調査の実施	○ 駆除実施地 ・外来ネズミの生息状況 (継続) ・植物、陸産貝類、昆虫、鳥類 (ノスリ) 等生息状況 ・植物 (タコノキなど) の被害状況調査 (年 5 回) (継続) ・陸産貝類生息状況 (兄島/年 2 回、弟島/年 1 回) (継続) ・オガサワラノスリ繁殖状況 (兄島、弟島、東島、年 1 回) (継続) ・アホウドリ、鳥類、植物、昆虫・海草等の生息状況 (専門家ヒアリング等による) ○ 駆除未実施地 (主に母島列島) ・外来ネズミの生息状況 (継続) ・生態系影響に関する専門家ヒアリング	① 既駆除地域でのモニタリング調査 (3 回終了)の結果、弟島にくわえて、兄島での駆除後の初確認があった。 ② 弟島南部での部分的防除を実施 ③ 兄島、弟島においてオガサワラノスリの繁殖率が上昇傾向にあることを把握。弟島での植物の被害再開を確認。兄島の陸産貝類では今のところ顕著な被害が生じていない事を把握。 ④ 第 1 世代による駆除時の手法改善検討を行った。駆除を実施すべき島嶼の優先順位を整理し、優先順位の高い母島属島に関して、さらに島の優先順位の整理、非標的種生息状況調査、配慮手法の検討整理を実施。第 2 世代の試験的利用に関する条件整理を実施。	① 未根絶島嶼における中長期計画策定。 ② 既駆除地域でのモニタリング調査の継続 ③ 根絶技術・コントロール技術確立の検討。根絶島嶼における再侵入防止手法の検討。 ④ オガサワラノスリなど鳥類、植物、陸産貝類などを調査対象種とした生態系モニタリングの継続 ④ 駆除手法の改善に関する検討、住民説明会の実施、駆除前のネズミ類・非標的種生息状況調査の実施	一部見直し	「ネズミ類対策検討会」において検討

事業項目				平成 24 年度		平成 25 年度予定		課題・備考	
種名	No.	事業名称	島・地域	事業内容	モニタリング項目	事業結果	平成 24 年 3 月時点		平成 25 年 7 月時点（見直し）
					(海鳥類、植物、陸産貝類、昆虫類、甲殻類等) ・陸産貝類生息状況(向島、平島、姉島、妹島、姪島/1回) ・陸生鳥類生息状況(向島、妹島、姪島/年1回)				
グリーンアノールオオヒキガエル	環6	外来生物重点防除事業 (父島アノール対策)	父島	① 重点防除区域を中心に、グリーンアノールの捕獲及び生息状況のモニタリングを継続する。 ・重点防除区域等において、アノールの生息・繁殖しないよう、植生管理等の効果をとりまとめる。 ② 属島へのアノール等の侵入状況の把握、侵入に対する早期対処の作業を実施する。 ・重点防除区域等へのアノールの移動等を把握する。 ③ オオヒキガエルの防除方法、体制等を検討し、重要地域における試験捕獲を実施する。 ・兄島でオオヒキガエル生息状況調査を実施する。 ④ 島民等に対する業務の普及啓発を実施し、普及啓発用展示物や啓発資料を作成する。	○父島(二見港)(継続) ・アノール生息状況(トラップによる捕獲/通年、ルートセンサス/年2回) ・オオヒキガエル試験捕獲(手取り等/年2回) ○属島(父島列島)(継続) ・アノール・オオヒキガエル侵入状況の確認(踏査/適宜) ・(兄島)オオヒキガエル根絶確認(音声モニタリング/適宜、踏査/10回程度)	① 二見港周辺の重点防除区域及び移動経路となる地域において、専属捕獲員により作業を行い、平成24年度は1502個体捕獲した。H24年10月における推定生息密度は、69個体/haであった。防除区域外に比べ、重点防除区域での密度は3割に低減することができた。 ・重点防除地域ではアノール生息適地排除のために植生管理等の効果をとりまとめた。 ② 踏査と関係者への聞き取り等の結果、アノール・オオヒキガエルの属島への侵入は確認されなかった(2013年1月現在)。その後、2013年3月、兄島でグリーンアノールが発見された。 ・属島利用マニュアル案を作成し、ガイドに配布した。 ・記号放逐調査等により、行動圏や移動パターンを確かめた。 ③ 重点防除地域でオオヒキガエルの試験捕獲を実施し、効果的な防除技術を検討した。 ・兄島で音声モニタリングを継続したが、オオヒキガエルの生息は確認されなかった。残存の可能性は低い。 ⑤ パンフレット「外来動物対策は今!」「私たちができること」の増刷。 ・保全対象種(オガサワラハンミョウ)の樹脂封入標本製作。 ・外来種対策及び固有昆虫保全に関する講演会と写真展を実施した。	② 重点防除区域を中心に、グリーンアノールの捕獲及び生息状況のモニタリングを継続する。 ・重点防除区域等において、アノールの生息・繁殖しないよう、植生管理等の効果をとりまとめる。 ② 属島へのアノール等の侵入状況の把握、侵入に対する早期対処の作業を実施する。 ・重点防除区域等へのアノールの移動等を把握する。 ③ オオヒキガエルの防除方法、体制等を検討し、重要地域における試験捕獲を実施する。 ・兄島でオオヒキガエル生息状況調査を実施する。 ④ 島民等に対する業務の普及啓発の実施。	一部見直し	
グリーンアノールオオヒキガエル	環7	外来両生爬虫類対策事業 (母島アノール対策事業)	母島	① 自然再生区においてアノールとオオヒキガエルの排除作業を継続する。 ② 外来種除去による影響緩和に伴う昆虫類及び土壌動物等の回復状況をモニタリングする。また、外来植物等の試験駆除とモニタリングを実施する。新夕日ヶ丘を小笠原国立	○新夕日ヶ丘自然再生区(継続) ・アノール・オガサワラトカゲ生息状況(トラップによる捕獲/通年、エリアセンサス/年2回) ・オオヒキガエル根絶確認(踏査・トラップ/通年) ・無脊椎動物(スジヒメカタゾウムシ等)生息・回復状況	① 新夕日ヶ丘ではアノールの集中捕獲とモニタリングを継続し、低密度状態を維持した。オオヒキガエルの侵入を阻止した。 ・南崎草原部ではアノールの捕獲とモニタリングを実施した。オオヒキガエルの生息は確認されなかった。 ② 新夕日ヶ丘では、昆虫類が増加傾	① 自然再生区においてアノールとオオヒキガエルの排除作業を継続する。 ② 外来種除去による影響緩和に伴う昆虫類及び土壌動物等の回復状況をモニタリングする。また、外来植物等の試験駆除とモニタリングを実施する。新夕日ヶ丘を小笠原国立公園における自然再生事業を情報発信する場として活用できるよう、住民と連携して自然再	一部見直し	「平成22年度より新夕日WGを設置」WGで検討。

事業項目				平成 24 年度			平成 25 年度予定		課題・備考
種名	No.	事業名称	島・地域	事業内容	モニタリング項目	事業結果	平成 24 年 3 月時点	平成 25 年 7 月時点（見直し）	
				公園における自然再生事業を情報発信する場として活用できるよう、住民と連携して自然再生を進める。 ③自然再生区以外の希少昆虫等の重要な生息場所でも、アノールやオオヒキガエルの防除を行い、生態系への影響を緩和する。	○南崎自然再生区（継続） ・アノール・オガサワラトカゲ・オオヒキガエル生息状況（捕獲・ルートセンサス／年1回） ・無脊椎動物（オガサワラセセリ、ヒメカタゾウムシ等）生息・回復状況 ○その他地域（継続） ・（石門）アノール生息状況（トラップによる捕獲／通年） ・（蓮池周辺）オオヒキガエル生息状況（ルートセンサス等／適宜） ・無脊椎動物（オガサワラジミ、等）生息・回復状況 ・固有トンボ、オガサワラジミ回復事業に係る生息状況	向にあることを確認した。地元住民と連携してオガサワラジミのモニタリングを実施し、植栽した在来樹での羽化を確認した。 ・南崎草原部では、スジヒメカタゾウムシの安定的な生息が確認された。草原部での調査は出来なかったが、周辺でのオガサワラセセリの生息が確認された。 ③・石門でアノールの捕獲とモニタリングを実施した。 ・蓮池では遮断柵によりオオヒキガエルの繁殖を阻止した。周辺では、踏査の際に成体が発見された。	生を進める。 ③自然再生区以外の希少昆虫等の重要な生息場所でも、アノールやオオヒキガエルの防除を行い、生態系への影響を緩和する。		
ウシガエル	環8	外来両生爬虫類対策事業	弟島	①監視を継続する。万一、残存個体の生息が疑われる場合は適切に対処する。 ②継続して人工池の管理を行って、固有トンボ類の生息場所を確保する。	・人工トンボ池における固有トンボ類生息状況 ・根絶モニタリング（音声モニタリング／7～9月）（継続）	①音声モニタリングを継続したが、ウシガエルの生息は認められなかった。残存する可能性は極めて低い。 ②トンボ類の人工繁殖池を維持管理した。人工池で固有トンボ類が安定的に繁殖しているのが確認された。	①監視を継続する。万一、残存個体の生息が疑われる場合は適切に対処する。 ②継続して人工池の管理を行って、固有トンボ類の生息場所を確保する。	見直しなし	平成21年11月の科学委員会で根絶を発表
ニューギニアヤリガタリクウズムシ	環9	プラナリア拡散防止対策業務 陸産貝類域外保全業務 外来生物重点防除業務	父島	①重要地域のプラナリア類及び陸産貝類の生息調査 ②域外保全技術の検討（野外飼育施設の改良、技術確立の検討） ③生息地保全手法の検討（プラナリア侵入防止柵の設計） ④再導入区域での保全策、管理手法（プラナリア類の低密度化実験、プラナリア類の侵入防止実験等）の検討 ⑤プラナリア類除去装置の維持管理（父島：高山・南崎地域、母島：乳房山、南崎） ⑥普及啓発（プラナリア類と固有陸産貝類に関するパンフレット作成）	○父島の5地域56地点においてプラナリア類の生息状況	①重要地域の1地域において、ニューギニアヤリガタリクウズムシの侵入が確認された。カママイの唯一の生存地域での確認がなかったほか、固有陸産貝類の密度の低下や激減した種が確認された。 ②陸産貝類の野外飼育施設改良を行い、実験を継続中。 ③プラナリアを忌避及び殺虫する天然成分由来の薬剤を用いた侵入防止柵の設計、実験開始。 ④通電テープ及び殺虫剤を用いたエリア排除手法の実験を実施。 ⑤プラナリア類除去装置の維持管理の継続。 ⑥パンフレット「小笠原に持ち込まれた生きものたち・プラナリア類」作成・配布予定。	①重要地域のプラナリア類及び陸産貝類の生息調査 ②域外保全技術の検討（野外飼育施設の改良、技術確立の検討） ③生息地保全手法の検討（プラナリア侵入防止柵の設計及び設置） ④再導入区域での保全策、管理手法（プラナリア類の低密度化実験、プラナリア類の侵入防止実験等）の検討 ⑤プラナリア類除去装置の維持管理（父島：高山・南崎地域、母島：乳房山、南崎） ⑥普及啓発	一部見直し	「プラナリア対策・陸産貝類検討会」において検討
固有陸産貝類				①父島における域外保全技術の確立（室内飼育と繁殖技術の確立、野外飼育手法の検討、飼育個体の遺伝子変動把握） ②室内飼育マニュアル作成 ③母島における域外保全のための基礎情報の収集。	○母島での陸産貝類の生息状況調査	①父島において恒温機による室内飼育を継続。危機的状況にある種・個体群の捕獲及び飼育開始。H25年2月現在4種5個体群80個体を飼育中（カママイ22、キノボリカママイ23、チジマカママイ27、（新規）アツカママイ8）。繁殖を試み、カママイ及びキノボリカママイで孵化、チジマカママイで産卵。野外施設内で網室を用いた飼育の試行を開始。 ②飼育体制検討のため、飼育トレーニ	①父島における域外保全技術の確立（室内飼育と繁殖技術の確立、野外飼育手法の検討、飼育個体の遺伝子変動把握） ②飼育マニュアル作成（室内飼育マニュアル改訂、屋外飼育マニュアル作成） ③母島における域外保全のための基礎情報の収集。	見直しなし	

事業項目				平成 24 年度			平成 25 年度予定		課題・備考
種名	No.	事業名称	島・地域	事業内容	モニタリング項目	事業結果	平成 24 年 3 月時点	平成 25 年 7 月時点（見直し）	
						ングを実施。飼育マニュアルを更新予定。 ③母島の 23 地点において陸産貝類の生息状況を把握。同時にブラナリアの生息状況も把握。	④母島島内の域外保全手法の課題整理(ニューギニアガ'クク'の侵入に備えた手法検討)		
アカギ	環 10	アカギ対策検討調査	母島、弟島	○母島北部を中心とした私有地における駆除試験の実施。 ○母島新夕日ヶ丘再生区内における植生回復(外来樹木等の駆除等)の継続実施 ○既往試験地の再処理とモニタリング ○普及啓発の実施	○既往試験地のアカギ再生状況調査 ○母島北部イエシロアリの分布調査	○母島北部私有地における駆除試験を実施(衣館地区) ○母島既往試験地におけるモニタリング調査の実施 ○母島新夕日ヶ丘再生区内における外来樹木の枯殺処理 ○母島におけるイエシロアリの分布に関する調査 ○アカギ材を用いた木工教室等の開催による普及啓発	○母島北部を中心とした私有地における駆除試験の実施。 ○母島新夕日ヶ丘再生区内における植生回復(外来樹木等の駆除等)の継続実施 ○既往試験地の再処理とモニタリング ○普及啓発の実施	・左記の予定を、外来植物対策を整理し、島毎に計画を立てて取り組むこととした。 ・特に、希少種保全と外来植物対策を連携させた取組を行うこととした。	・民有地については、土地登記者が高齢化しており、戦前居住していた方などは連絡の追跡が難しく、こうした一部の土地で駆除が実施できない状況となっている。 未駆除地が種子の供給源となって駆除後のエリアへの侵入が懸念される。
モクマオウ(リュウキュウマツを含む)	環 11	外来植物対策調査業務	兄島、弟島、妹島、姪島	○兄島・弟島における駆除及び監視の実施 ○弟島における新規外来種の対策試験の検討・着手(ガジュマル成木)。 ○妹島におけるギンネム根絶に向けた継続的な枯殺処理と既往処理箇所(リュウキュウマツ、ギンネム)のモニタリング ○姪島におけるリュウゼツランの駆除試験の検討・着手。既往処理箇所(モクマオウ)のモニタリング ○除草剤による枯殺手法の確立試験の継続	○既往試験地調査(兄島、弟島) ・生態系への影響 ・稚樹のモニタリング ・陸産貝類生息状況 ・昆虫調査生息状況	○既往試験地(兄島)におけるモニタリングと追加枯殺処理の実施 ○既往試験地(弟島)におけるアカギ・ギンネム等の根絶に向けた駆除処理 ○弟島におけるノヤシ保全のためのカンショオサゾウムシ防除対策の検討 ○妹島(リュウキュウマツ、ギンネム)、姪島(モクマオウ)における外来樹木の駆除試験の継続 ○父島東平柵内の外来植物の追加駆除の実施 ○除草剤(ラウンドアップ以外)による枯殺試験の実施と経過観察による枯殺効果の確認調査の実施	○兄島・弟島における駆除及び監視の実施 ○弟島における新規外来種の対策試験の検討・着手(ガジュマル成木)。 ○妹島におけるギンネム根絶に向けた継続的な枯殺処理と既往処理箇所(リュウキュウマツ、ギンネム)のモニタリング ○姪島におけるリュウゼツランの駆除試験の検討・着手。既往処理箇所(モクマオウ)のモニタリング ○除草剤による枯殺手法の確立試験の継続		
アカガシラカラスバト	環 12	アカガシラカラスバト保護増殖事業に関する調査等業務	父島列島	① 目撃情報の収集・管理 ② 生息状況調査 ③ 標識装着 ④ 父島における解析抽出された好適繁殖地の調査及び解析	・アカガシラカラスバトの生息状況、繁殖状況	① 父島列島及び母島列島における目撃情報は前年に比べ増え、特に若鳥(未標識・不明個体)の出現が増加した。 ② 島間移動が多数確認された。繁殖域が乾性低木林内に広がった。 ③ 父島・母島・北硫黄島で合計 39 羽装着した。(H24.9 まで) ④ GIS 業務の取りまとめ状況が今年度末のため、次年度報告。	① 目撃情報の収集・管理 ② 生息状況調査 ③ 標識装着 ④ 環境条件の地理的情報整理及び繁殖環境条件の解析	見直しなし	「アカガシラカラスバト保護増殖検討会」で検討。
オガサワラオオコウモリ	環 13	オガサワラオオコウモリ生息状況等調査事業	父島	① コウモリ事故防止のための普及啓発 ② 繁殖期を中心としたねぐら周辺域の巡視等	・オガサワラオオコウモリの生息数 ・冬季ねぐら域の環境	・現地における連絡体制と共に状況把握に努めている。	① 関係機関と連携し、現地における問題の抽出と連絡体制の確立をしつつ状況把握に努める。	・アカガシラカラスバト・オガサワラオオコウモリに関する現地連絡会において、関係機関と連携して現地における問題に対応	実質的な事業展開に至っていない。
希少昆虫類	環 14	小笠原希少昆虫保護増殖事業に関する	父島属島、母島	① 昆虫 5 種の生息状況調査及び生息環境調査を継続する。	・オガサワラシジミ、オガサワラトンボ、オガサワラアオイトトンボ、ハナダカト	① 昆虫 5 種の生息状況調査、生息環境調査を継続。特にオガサワ	① 昆虫 5 種の生息状況調査及び生息環境調査を継続。	・オオバシマムラサキ植栽のための検討会を開催、植栽計画を策定予定	「小笠原希少昆虫保護増殖事業連絡会議」及び同専門家打合せにおい

事業項目				平成 24 年度			平成 25 年度予定		課題・備考
種名	No.	事業名称	島・地域	事業内容	モニタリング項目	事業結果	平成 24 年 3 月時点	平成 25 年 7 月時点（見直し）	
		る調査等業務	属島	② オガサワラハンミョウの生息域外保全を継続し、野生復帰の必要性及び影響評価のための情報収集・検討を行う。 ③ 弟島のシュロガヤツリ（外来植物）の駆除を継続する。 ④ 住民説明会、専門家打合せ、連絡会議を開催する。	・オガサワラハンミョウの生息状況及び生息環境（継続） ・シュロガヤツリ駆除後の固有トンボ類の回復状況等検証（継続）	ラハンミョウ、トンボ類については未調査地を含め広範囲に調査を実施。シジミについては外来樹対策地において食樹生育状況、利用状況について調査。 ② オガサワラハンミョウの生息域外保全を継続 ③ 弟島のシュロガヤツリ（外来植物）の駆除を継続。 ④ 地元小学校を対象にした説明会、専門家打合せ、連絡会議を開催。	② オガサワラハンミョウの生息地を保全するための落葉除去等の対策を実施。 ③ オガサワラハンミョウの生息域外保全を継続 ④ 弟島のシュロガヤツリ対策について、根からの除去を試験的に実施 ⑤ 専門家打合せ、連絡会議の開催	・グリーンアノールと保全対象種の相互関係に注視が必要。	て検討。
希少植物	環 15	小笠原希少野生植物の生育状況調査等域内保全事業 小笠原希少野生植物域外保全事業	父島、兄島、母島、妹島、域外保全施設	① 生育地における生育状況等モニタリング ② ノヤギ、ネズミ類による食害防止等生育環境の維持改善 ③ 域外保全施設における系統保存、増殖技術の試験等 ④ 自生個体の人工授粉、播種試験等の植栽を実施 ⑤ 生育地の土壌等環境条件の調査及び生育適地の解析 ⑥ 植栽実施計画未検討種の検討	・希少植物 1 2 種の生育状況（過去の植栽株を含む） ・ノヤギ、ネズミ類による食害防止施設の状況	① 生育地における生育状況等のモニタリング、生活史解明のための調査等を実施。 ② ノヤギ、ネズミ防止柵の設置及び維持管理を実施。 ③ 域外保全施設における系統保存、増殖技術の試験等を実施 ④ 植栽計画に基づき自生個体の人工授粉、播種試験等の植栽を実施。 ⑤ 土壌等生育基盤の地理的情報を整備。 ⑥ 4 種について新規植栽計画、1 種について改訂植栽計画を検討。	① 生息地における生育状況等モニタリング ② ノヤギ、ネズミ類による食害防止等生育環境の維持改善 ③ 域外保全施設における系統保存、増殖技術の試験等 ④ 自生個体の人工授粉、播種試験等の植栽を実施	・外来植物対策と連携し、希少種保全のための外来植物対策の方向性を検討する。	「小笠原希少植物保護増殖事業「植栽」に関する検討会」において「植栽実施計画」について検討。

※関東地方環境事務所にて実施

■実施機関：林野庁

事業項目				平成 24 年度		平成 25 年度予定		課題・備考	
種名	No.	事業名称	島・地域	事業内容	モニタリング項目	事業進捗	平成 24 年 3 月時点 (計画)		平成 25 年 7 月時点 (見直し)
外来植物 (アカギ、モクマオウ等)	林 1	中・長期の外来植物駆除計画策定	小笠原諸島	—	—	—			—
アカギ、モクマオウ、リュウキュウマツ等	林 2	森林生態系の修復を目的とした外来植物の駆除	父島、兄島、弟島、母島、向島等	[林 1]の中・長期計画に基づき、 ○ 薬剤注入等によるアカギ、リュウキュウマツ、モクマオウ等の駆除を、父島東部(約 8ha)、弟島(約 8ha)、兄島(約 24ha)、西島(約 3ha)、東島(約 14ha)、母島(石門約 1ha)、向島(約 2ha)で実施。また、アカギ等の稚幼樹の抜き取り等を父島、兄島、弟島、母島(石門、南崎)において併せて実施。 ○ 25 年度以降の駆除予定木調査を父島東部(約 37ha)、弟島(約 20ha)、兄島(約 11ha)、東島(約 3ha)、母島(約 18ha)で実施 ○ 事前・事後モニタリング調査を上述の箇所等で実施。	○ 外来植物の駆除に当たっては、順応的な管理のための事前モニタリング及び事後モニタリングを実施。  モニタリングの内容 ① 鳥類(ラインセンサス、ポイントセンサス等) ② 昆虫類(直接観察、トラップ等) ③ 陸産貝類(コドラート等) ④ 植生(プロット等) ⑤ 陸水動物(コドラート等) ⑥ 水質・土壌成分(薬剤の残留状況) ⑦ シロアリ(ラインセンサス等：父島及び母島)  ※「小笠原諸島における森林生態系保全管理技術事業」(「林 11」)によるモニタリング結果も活用	[林 1]の中・長期計画に基づき、 ○ 薬剤注入等によるアカギ、リュウキュウマツ、モクマオウ等の駆除を、父島東部(約 8ha)、弟島(約 8ha)、兄島(約 34ha)、西島(約 3ha)、東島(約 14ha)、母島(石門約 1ha)、向島(約 2ha)で実施(計約 72ha)。また、アカギ等の稚幼樹の抜き取り等を父島、兄島、弟島、母島(石門、南崎)において併せて実施。 ○ 25 年度以降の駆除予定木調査を父島東部(約 37ha)、弟島(約 20ha)、兄島(約 11ha)、東島(約 3ha)、母島(約 18ha)で実施(計 89ha)  ○ 事前・事後モニタリング調査を上述の箇所等で実施。	○ 薬剤注入等によるアカギ、リュウキュウマツ、モクマオウ、ギンネム等の駆除を、父島東部(約 8ha)、弟島(約 27ha)、兄島(約 43ha)、西島(約 4ha)、東島(約 4ha)、母島(塚が岳外約 20ha)、向島(約 2ha)で実施予定(計約 108ha)。なお、アカギ等の稚幼樹の抜き取り等を父島、兄島、弟島、母島(石門、南崎)において併せて実施予定。 ○ 26 年度以降の駆除予定木調査を弟島(約 32ha)、孫島(約 5ha)、兄島(約 20ha)、西島(約 2ha)で実施予定(計 51ha) ○ 事前・事後モニタリング調査を上述の箇所等で実施予定。	弟島(約 27→未定 ha)、兄島(約 43→35+伐開 ha)、等々	「保全管理委員会」で事業計画等を承認。 「固有生態系修復事業検討委員会」で具体的駆除の進め方等を検討。
	林 3	外来植物駆除事業影響調査-シロアリ対策-	父島・母島	外来植物駆除事業に伴うシロアリ対策の指針を検討するため、国有林内のシロアリの生息密度等の調査を実施する予定。	—	応礼なしにつき中止とし、「林 13」外来植物駆除残置木有効活用調査に含めて調査。			
その他外来植物、普及啓発等	林 4	小笠原原生植生回復ボランティア	母島	○母島桑の木山において、内地及び現地ボランティアの協力を得て、外来植物(アカギ等)の抜き取り等を実施。		・母島桑の木山において、外来植物(アカギ等)の抜き取り等を実施。(実施日 24. 11. 8 参加者内地ボランティア 24 人、現地ボランティア 4 人及び現地スタッフ等 10 人 合計 38 人により実施)	○24 年度に引き続き実施予定	見直しなし	
	林 5	外来植物駆除作業体験への協力等	南島、父島等	○23 年度に引き続き実施		○小笠原中学校 ・父島東平サンクチュアリー内で、外来植物(アカギ等)の駆除作業を実施(実施日 24. 10. 18 生徒 17 人・教員 4 人参加) ○小笠原高校 ・兄島で外来植物(センダングサ等)の駆除作業を実施(実施日	○24 年度に引き続き実施予定	小笠原高校 ・兄島で外来植物(センダングサ等)の駆除作業を実施→実施箇所については検討中	

事業項目				平成 24 年度			平成 25 年度予定		課題・備考
種名	No.	事業名称	島・地域	事業内容	モニタリング項目	事業進捗	平成 24 年 3 月時点 (計画)	平成 25 年 7 月時点 (見直し)	
						24.10.27 生徒 9 人・教員 4 人参加) ○父島の国有林内で、外来植物(モクマオウ等)の駆除作業を実施(実施日 25.2.20 生徒 8 人・教員 3 人参加)			
林 6		地元 NPO と連携した外来植物駆除	父島等	○各事業とも、23 年度に引き続き実施。	○西島：トンボ池のモニタリング ・トンボ池内に生息するヤゴ等を調査・観察しトンボ類の個体識別をモニタリング ○東島：海鳥繁殖環境モニタリング ・調査区内の営巣巣穴について、ボアスコープでの観察、捕獲による直接観察、自動撮影による写真判定による海鳥種別等を調査確認モニタリング	○村民の森(NPO 法人小笠原野生生物研究会) ・会員によるシマホルトノキ植栽 ・会員によるモクマオウ、リュウキュウマツ、ギンネム外来種駆除。林内歩道外来種刈り払い ○ハトの森林(小笠原自然観察指導員連絡会) ・現地区域の確認及び植生状況事前調査 ○西島の固有森林生態系の修復と保全の森(小笠原クラブ) ・トンボ池のメンテナンス及びモニタリング ・森林生態系保全活動を題材とした環境教育プログラムを実施 ○東島森林性海鳥の地(NPO 小笠原自然文化研究所) ・会員による森林内営巣センサス調査区内の営巣状況記録、海鳥繁殖環境モニタリングを実施	○各事業とも、24 年度に引き続き実施予定。	見直しなし	「保全管理委員会」で活動状況等を検討
林 7		ノネコ	父島	○引き続き連絡会議と連携し実施。		○小笠原ネコに関する連絡会議と連携し実施。(父島、母島での捕獲数 64 頭(飼猫捕獲含む)、うち東京動物病院搬送 56 頭、差の 8 頭は、飼い主へ返却)	○引き続き連絡会議と連携し実施予定。	見直しなし	

事業項目				平成 24 年度			平成 25 年度予定		課題・備考
種名	No.	事業名称	島・地域	事業内容	モニタリング項目	事業進捗	平成 24 年 3 月時点 (計画)	平成 25 年 7 月時点 (見直し)	
固有種等	林 8	希少野生動植物種の保護管理等	父島・母島	○希少野生動植物種の保護・保全を実施予定。 ○過去の巡視記録等について、データベース化を実施。	○巡視による生息状況確認 ① 鳥類 メグロ：ラインセンサス ② アカガシラカラスバト等 3 種：生息状況 ③ 植物 ムニンツツジ等 12 種：開花状況、枯損・折損等 ④ 昆虫 オガサワラシジミ等 5 種：生息状況 ⑤ ほ乳類 オガサワラオオコウモリ：生息状況	①メグロのライセンス調査を実施して生息状況を確認。 ②アカガシラカラスバト等の生息状況を調査。 (巡視時に毎回のように確認) ③ムニンツツジ等 1 2 種の生育状況等を確認。 (一部に生育不良のものが見られたが、ムニンツツジ 8 株を確認) ④昆虫類の生息状況の確認を実施。(確認は少数) ⑤オガサワラオオコウモリの生息状況の確認を実施。(確認数は少数) ○過去の巡視記録等について、データベース化を実施	○引き続き、希少野生動植物種の保護・保全を実施予定。	見直しなし	「保全管理委員会」で検討
	林 9	希少野生動植物種保護管理対策調査	母島列島、父島	○アカガシラカラスバトを主体にオガサワラカワラヒワについても、引き続き実施。	① アカガシラカラスバト：センサーカメラによる出現状況 (母島) ② オガサワラカワラヒワ：生息状況 (足輪装着、生息調査：母島、姉島、妹島、姪島、向島及び平島)	①アカガシラカラスバトの出現状況を観察。(確認できたのは、既知の個体) 母島でアカガシラカラスバト 3 羽に脚環を装着。 ② 母島列島でオガサワラカワラヒワに脚環の装着及び生息状況を調査。(若鳥がほとんど)	(検討中) ①アカガシラカラスバトについては、標識調査を主にして、目撃情報はヒヤリングで実施。鳴き声調査のためのテープレコーダの設置を検討。 ②オガサワラカワラヒワの標識調査の脚環をプラスチック製から金属製に変えて調査を実施する。	①アカガシラカラスバトについては、標識調査を主にして、目撃情報はヒヤリングで実施予定。鳴き声調査のためのテープレコーダを設置し調査を実施予定。 ②オガサワラカワラヒワの標識調査の脚環をプラスチック製から金属製に変えて調査を実施予定。	希少野生動植物種保護管理対策調査委員会で検討
	林 10	父島アカガシラカラスバトサンクチュアリの整備	父島	○引き続き実施。		○サンクチュアリー内の生態系維持作業(木道整備等)を実施。 ○プラナリア対策として、入口に、酢スプレーを設置。	○24 年度に引き続き実施予定。 なお、プラナリアの他エリアへの移動防止対策として、出口にも酢スプレーの設置を検討。	見直しなし	「保全管理委員会」で検討
その他	林 11	小笠原諸島における森林生態系保全管理技術事業	兄島等	○引き続き実施。	平成 23 年度と同じ調査区において、 ○広域調査区において、植生調査、植物相調査、動物調査(鳥類、昆虫類、陸産貝類、陸棲プラナリア)を実施。 ○詳細調査区(広域調査区内に設置)において、植生調査、植物個体群調査(ウラジロコムラサキ、コヘラナレン、マツバシバ等)、動物調査(オガサワラハンミョウ、陸産貝類)を実施。	平成 20 年度からの検討結果を踏まえ、今年度中に、「森林生態系保全管理手法ガイドライン・兄島モデル」をとりまとめ予定。	○平成 24 年度で事業終了		「種間相互作用ワーキンググループ」において検討

事業項目				平成 24 年度			平成 25 年度予定		課題・備考
種名	No.	事業名称	島・地域	事業内容	モニタリング項目	事業進捗	平成 24 年 3 月時点（計画）	平成 25 年 7 月時点（見直し）	
	林12	小笠原諸島における森林生態系保全管理手法開発事業	兄島・弟島・父島				「森林生態系保全管理手法・兄島モデル」を踏まえ、兄島台地上の乾性低木林以外の重要な森林生態系を対象に、種間相互作用に着目した森林生態系保全管理手法の開発を実施。	父島列島全体の森林生態系を一体的に維持・復元していくため、主に父島・兄島・弟島を対象として、モニタリング調査等によって種間関係を解明するとともに、父島列島における森林生態系保全管理手法の開発を実施。	新たに「父島列島生態系保全管理ワーキンググループ」を設置して検討
その他外来植物、普及啓発等	林13	外来植物駆除残置木有効活用調査	父島及び母島	林内に残置している駆除木の有効活用を図ることにより、人家等から 500m 程度以内をも含めた外来種の駆除促進を可能とし、もって侵略的外来種駆除の継続的実施とシロアリ被害の未然防止に寄与することを目的に、駆除残置木の搬出方法の確立と搬出材の有効活用方策の創出等を委託調査により実施。		取りまとめ済み。	残置駆除木の用途の1つと考えられる木炭(黒炭・白炭)について、その利用可能性に視点を当て委託調査を実施予定。	残置駆除木の用途の1つと考えられる木炭(黒炭・半白炭)について、その利用可能性に視点を当て委託調査を実施予定。	
	林14	新たな外来種等の予防対策調査	(父島及び)母島	小笠原諸島の価値保全に向け、未知の外来種の侵入・拡散を未然に防止するため、既存の予防措置の検証と問題点を抽出し、対応方策を検討するとともに、防除施設等のあり方を委託調査により検討。		取りまとめ済み。	24 年度調査結果を踏まえつつ、外来種予防対策施設整備に係る実施設計及び施設整備を実施予定。	24 年度調査結果を踏まえつつ、母島において外来種予防対策施設に係る実施設計及び施設整備を実施予定。	
	林15	森林生態系の保全と利用に関する調査	父島及び母島	世界自然遺産登録以降、観光客等が増加し、固有の森林生態系への影響が懸念されることから、アカガシラカラスバトサンクチュアリ(SA)の保全方法及びそれ以外の新たな観察フィールドの設置等を委託調査により検討。		取りまとめ済み。	24 年度調査結果をも踏まえ、観察フィールドの整備・管理等に順次取り組む予定。	24 年度調査結果をも踏まえ、新たな観察フィールドの整備・管理等に順次取り組む予定。	

※林 11 及び 12 以外は、関東森林管理局にて実施

■実施機関：東京都

事業項目				平成 24 年度 (見込み)			平成 25 年度 予定		課題・備考
種名	No.	事業名称	島・地域	事業内容	モニタリング項目	事業結果	平成 24 年 3 月時点 (予定)	平成 25 年 7 月時点 (見直し)	
ノヤギ	都 1	父島列島植生回復事業	父島 兄島 弟島	①父島のノヤギ排除作業を継続実施。 ②父島のノヤギ生息数、植生等についてモニタリング調査を継続実施	○父島 ・ノヤギ生息状況(定点観察、船上・陸上カウント)(継続) ・オガサワラノスリ生息状況(船上・定点観察) ・植生調査(53箇所ポイントコドラート、25箇所定点写真観察) ○兄島(3~5年毎で継続。次回 H26 予定) ・植生調査(6箇所コドラート) ○弟島(3~5年毎で継続。次回 H26 予定) ・固有植物調査(オガサワラグワ) ・外来植物調査(モクマオウ、ギンネム) ・植生調査(3箇所コドラート)	①父島のノヤギ排除頭数(環境省、東京都、小笠原村) 銃器 437 頭 わな 51 頭 合計 488 頭 (H22 からの累計 1567 頭) ②捕獲圧の高い地域(鳥山、西海岸、中山峠、赤旗山等)の草地では草丈の伸長や増加が見られた。	①父島のノヤギ排除作業を継続実施。 ②父島のノヤギ生息数、植生等についてモニタリング調査を継続実施	見直しなし	『父島ノヤギ排除検討委員会』にて検討  『弟島・兄島ノヤギ排除検討委員会』にて検討(ノヤギ根絶に伴い平成 23 年度に終了)
プラナリア	都 2	都レンジャーの配置	父島 母島 属島	継続して実施 平成 24 年度より 7 名体制に強化(父島 4 名、母島 3 名)	洗浄マットの内容物を分析	・内容は分析中 ・父島から母島及び属島への拡散を防止するための普及啓発や利用者指導を継続実施。	継続して実施	見直しなし	都レンジャー 父島 4 名 母島 3 名
アカギ・モクマオウ・リュウキュウマツ	都 3	都所有地外来植物対策事業	父島 弟島	① 父島の都所有地で、モクマオウ等の外来植物駆除を実施。 ② 弟島の都所有地における駆除計画を策定	・植生調査	夜明山周辺の国有林隣接地で駆除を実施。 モクマオウ 2 本 リュウキュウマツ 12 本 ギンネム 1 本 シマグワ 1 本 キバンジロウ 51 本	①父島の都所有地で外来植物駆除を継続して実施 ②弟島の都所有地で外来植物駆除に着手	見直しなし	「父島列島外来植物対策検討委員会」にて検討
ギンネム、ヤダケ、その他外来植物	都 4	聟島列島植生回復事業	聟島 媒島	①継続してモニタリング調査を実施(聟島、媒島) ②ギンネム・タケ・ササ類の駆除を継続して実施(聟島、媒島) ③継続して、土壌流出が著しく、植生基盤への影響が大きいエリアにおいて、土留めダムや侵食防止シートの設置、緑化移植工等を行う(媒島)	・海鳥生息状況(嫁島、媒島、聟島) ・昆虫類生息状況(聟島、媒島:インベントリー、ライト・マレーズトラップ) ・陸産貝類生息状況(聟島、媒島)(隔年) ・残存林の拡大縮小状況(聟島、媒島)(毎年~数年間隔) ・植物群落(聟島 1 箇所、媒島 5 箇所、嫁島 1 箇所)(数年間隔) ・海底環境(媒島袋港)(隔年) ・外来植物分布(嫁島ヤダケ、媒島タケ・ササ類)(数年間隔) ・ギンネム分布状況、駆除箇所植生回復状況 ・ギンネム駆除陸産貝類影響モニタリング(聟島/1 地点/50m トランゼクト、媒島/3 地点/50m トランゼクト)	①モニタリングにおいて、大きな変化はなし。ギンネムは分布拡散を確認。 ②ギンネムの駆除作業を継続して実施(聟島 1.0ha、媒島 5.1ha) ③ ・ダム 1 基改修 ・イネ科緑化移植工 4800 m <sup>2</sup> ・浸食防止シート工 2500 m <sup>2</sup>	①モニタリング調査を継続して実施(聟島、媒島) ②ギンネム・タケ・ササ類の駆除を継続して実施(聟島、媒島) ③継続して、土壌流出が著しく、植生基盤への影響が大きいエリアにおいて、土留めダムや侵食防止シートの設置、緑化移植工等を行う(媒島)	見直しなし	「小笠原国立公園聟島列島植生回復調査検討委員会」において検討  「小笠原国立公園媒島・聟島植生復元測量調査・設計検討委員会」において検討
	都 5	父島列島外来植物対策事業	父島 兄島 孫島	ノヤギの根絶・減少に伴い拡散の恐れがある外来植物を駆除。 ① ギンネム：母樹の駆除実施。実生・稚樹の確認及び駆除 ② モクマオウ等：兄島北部において駆除計画を策定	・植生調査 ・駆除・再生モニタリング ・薬剤成分モニタリング	① ギンネム駆除 父島：中山峠、巽崎、鳥山(母樹 840 本、稚樹 11000 本) 兄島：滝之浦、ヌナヒチ周辺、二俣岬(母樹 3500 本、稚樹 55000 本)	①ギンネム駆除 万作浜周辺継続して実施 ②モクマオウ等 兄島北部(二俣岬周辺)で外来植物駆除に着手	②モクマオウ等 兄島丸山~見返山間の残留木駆除追加	「父島列島外来植物対策検討委員会」にて検討
	都 6	南島植生回復事業	南島	侵略的な外来植物の排除を継続実施。	・固有ハナバチ類の訪花状況 ・外来植物分布状況	①シンクリノイガ等の外来草本 53 回実施し、5800kg 駆除(90kg ゴミ)	侵略的な外来植物の排除を継続実施。 (シンクリノイガ等の外来草本及びモ)	見直しなし	地元 NPO においても関連機関(小笠原総合事務所国有林課、小笠原村)の協力のもと外来種

事業項目				平成 24 年度（見込み）			平成 25 年度予定		課題・備考
種名	No.	事業名称	島・地域	事業内容	モニタリング項目	事業結果	平成 24 年 3 月時点（予定）	平成 25 年 7 月時点（見直し）	
				（シンクロナイガ等の外来草本及びモクマオウ、ガジュマル等の外来木本）		袋で 1100 袋 ②生育する外来木本の全てを駆除。（モクマオウ 2 本、ガジュマル 1 本）	クマオウ、ガジュマル等の外来木本）		駆除ボランティアを実施している。
		南島植生回復調査	南島	ネズミ類生息状況や生態系モニタリング（鳥類、甲殻類、植生景観等）を継続して実施。	・外来ネズミ生息状況（継続） ・生態系モニタリング（鳥類、甲殻類、植生景観）（年 1 回、継続） ・薬剤成分モニタリング	・ネズミ類の生息確認なし	ネズミ類生息状況や生態系モニタリング（鳥類、甲殻類、植生景観等）を継続して実施。	見直しなし	「南島植生回復調査検討委員会」にて検討
	都 7	南島自然環境モニタリング	南島	利用と自然環境に関するモニタリングを継続して実施	微地形、植生、気象観測、外来植物分布、海鳥類、利用状況、訪花昆虫等	・大きな変化は見られない	利用と自然環境に関するモニタリングを継続して実施	見直しなし	「南島自然環境モニタリング調査検討委員会」にて検討
アカガシラカラスバト	都 8	アカガシラカラスバト保護増殖事業（域外保全）	内地	継続して保護増殖を実施		傷病個体 1 羽をファウンダーに追加。35 羽飼育（上野 27、多摩 8）。産卵 43、孵化 9、成育 6	継続して保護増殖を実施	見直しなし	アカガシラカラスバト保護増殖分科会にて検討
	都 9	アカガシラカラスバト生息調査	火山列島	北硫黄島における生息調査	アカガシラカラスバト オガサワラオオコウモリ	父島で放鳥したアカガシラカラスバトを北硫黄島で確認	北硫黄島における生息調査を継続	春に予定していた調査は、兄島アノール対応のため中止	〃
オガサワラシジミ	都 10	オガサワラシジミ保護増殖事業（域外保全）	内地	継続して保護増殖を実施し、飼育繁殖技術の確立を目指す。		10 月♀ 1 捕獲、採卵後放蝶 採卵数 87、孵化数 70、羽化数 51 2 月 21 日最後の♂個体死亡。交尾成功せず。	継続して保護増殖を実施し、飼育繁殖技術の確立を目指す。	見直しなし	「小笠原希少昆虫保護増殖事業連絡会議」にて検討
	都 11	オガサワラシジミ保全事業	母島	継続して実施 対象地周辺の食餌木から種子採取、穂木採取	対象地周辺の食餌木の開花・結実状況	調査及び対象地整備を継続して実施	継続して実施	見直しなし	〃
オガサワラオオコウモリ	都 12	オガサワラオオコウモリ保全事業	父島	継続して実施 利用が見られる都有地において外来植物の駆除を実施	・都有地での飛来・利用状況 ・GPS による行動圏調査	・調査実施中	継続して実施	見直しなし	
アホウドリ類	都 13	アホウドリ類繁殖状況調査	聳島列島 父島列島 母島列島	・繁殖状況調査を継続して実施 ・聳島列島におけるアホウドリの飛来・繁殖モニタリングに着手	アホウドリ類（クロアシアホウドリ、コアホウドリ、アホウドリ） 聳島列島：全域 父島列島：孫島 母島列島：姉島属島・妹島属島	①アホウドリ飛来 ・飼育個体 5 羽、自然個体 3 羽 ・無性卵の産卵確認 ②クロアシアホウドリ繁殖数 ・聳島列島 933 羽、 ・父島列島 7 羽 ・母島列島 14 羽 ③コアホウドリ繁殖数 ・聳島列島 11 羽	継続して実施	見直しなし	地元 NPO（小笠原自然文化研究所）と連携して実施。

■実施機関：小笠原村

事業項目				平成 24 年度			平成 25 年度予定		課題・備考
種名	No.	事業名称	島・地域	事業内容	モニタリング項目	事業結果	平成 24 年 3 月時点（予定）	平成 25 年 7 月時点（見直し）	
シンクリ ノイガ	村 1	外来種啓発事業	南島	南島で 1 回実施		参加人数 30 名	南島及び兄島での実施予定	兄島で 5/6 に 1 回目を実施。	兄島でのアノール緊急対策が集中するため、実施に関しては、備船の調整が必要
オガサワ オオコウ モリ	村 2	農作物被害防除対策事業	父島	硬質樹脂製ネットを使用した農作物被害防除施設及び器具の設置を希望する者に対し、施設等設置に要する資材を無償貸与する事業を実施する。	硬質樹脂製ネット使用の施設及び器具の設置により、本種のネット絡まり事故もなく、農作物被害も出ず、本種への保護の関心も高まり、種の保全、村民生活の両立が図られている。	資材配布は、施設設置 3 件、器具設置 2 件実施。	1. 施設設置資材貸与、設置 2. 既存施設の躯体を利用した硬質樹脂ネット張替え及び器具設置資材の貸与、指導、設置 3. 施設設置場所環境整備 4. 暴風災害前後の維持管理 5. 栽培種別被害実態、施設等設置希望調査 6. 栽培種別防除策、保護管理マニュアル作成	見直しなし	台風災害時の対応として、安全性確保のため、硬質樹脂製ネット使用の施設設置は、構造上、高さ 2.5m に制限を掛けている。 高木の場合で、高所に果実が成る場合は、硬質樹脂製ネット使用の器具設置での対応を提示している。 然しながら、高所に集中して果実が成る種、高木で葉が加害を受ける種等の防除策が確立していない。 これらの防除策を考案し、実証実験、生態に与える調査により安全性が認められた防除策を提示する必要が生じている。

■実施機関：民間・共同・その他

事業項目				平成 24 年度			平成 25 年度予定		課題・備考
種名	No.	事業名称	島・地域	事業内容	モニタリング項目	事業結果	平成 24 年 3 月時点（予定）	平成 25 年 7 月時点（見直し）	
ネコ	民 1 環 2	緊急捕獲事業、平成 21 年度より山城捕獲事業	父島 ・母島 ・弟島	母島北進線において、アカガシラカラスバト保護のため、ノネコの緊急捕獲を行う。		28 捕獲し、父島で一時飼養後に、東京都獣医師会へ搬送した（3/7 現在）。	継続して実施	見直しなし	地元 NPO（小笠原自然文化研究所）が実施。＜小笠原のネコに関する連絡会議＞において共同実施、＜東京都獣医師会＞が協力
ネコ	民 2	適正飼養推進事業	父島 ・母島	23 年度と同規模で実施。 更なるマイクロチップ挿入率の向上と適正飼養の推進を図る。  新規転入者への周知徹底を図る。		派遣動物診療団により、父島・母島で計 132 頭のネコを診療し、このうち未装着なネコ 6 頭にマイクロチップを挿入し、挿入率は 67% を達成した。 派遣獣医師による飼い主との懇談会を開催し、適正飼養の推進と野生動物保護の理解を図った。 また、獣医師との意見交換会、小中学校等での次世代教育を実施した。	24 年度と同規模で実施。 更なるマイクロチップ挿入率の向上と適正飼養の推進を図る。  新規転入者への周知徹底を図る。	見直しなし	事業費については村負担。＜小笠原のネコに関する連絡会議＞において協力、＜東京都獣医師会＞が協力
アホウドリ類	民 3	アホウドリ類繁殖状況調査	聳島列島 父島列島 母島列島	継続して実施 聳島列島でアホウドリの調査に着手	アホウドリ類（クロアシアホウドリ、コアホウドリ） 聳島列島：全域 父島列島：孫島 母島列島：姉島属島・妹島属島	①クロアシアホウドリ繁殖数 ・聳島列島 933 羽、 ・父島列島 7 羽 ・母島列島 14 羽 ②コアホウドリ繁殖数 ・聳島列島 11 羽	継続して実施	見直しなし	地元 NPO（小笠原自然文化研究所）と連携して実施。

【実施機関】

No.1 小笠原ネコに関する連絡会議（自然保護官事務所、小笠原総合事務所国有林課、支庁、村、村教委、NPO 小笠原自然文化研究所）、小笠原自然解説指導員連絡会、（社）東京都獣医師会が実施。

協力：島内獣医師、ボランティア（捕獲・飼育）、小笠原海運（株）、母島観光協会、関東地方環境事務所、東京都環境局

No.2 （社）東京都獣医師会と小笠原ネコに関する連絡会議（自然保護官事務所、小笠原総合事務所国有林課、支庁、村、村教委、NPO 小笠原自然文化研究所）が実施。 協力：NPO どうぶつたちの病院。主な活動資金は（財）自然保護助成基金助成事業による。

No.3 東京都小笠原支庁、NPO 小笠原自然文化研究所